

ひろしま国際交流・協力情報誌

編集・発行／公益財団法人ひろしま国際センター交流部

HIC通信

Vol. 92

April 2016
Hiroshima
International
Center



目次

P 2 特集

ひとことフレーズ in 広島市内

P 4 事業報告

交流部

留学生活躍支援センター

研修部 (ひろしま国際プラザ)

P 8 JICA レポート

こちら JICA デスク

P 10 コラム

Hello Hiroshima

P 11 イベント・講座案内

Upcoming Events News

外国人観光客に 英語で道を聞かれました?!

とっさの

ひとこと便利フレーズ
in 広島市内

季節のいい春から秋は、広島に訪れる外国人観光客が増える季節。
どこかで「外国人に道を聞かれること」があるかもしれません。

英語は苦手とドキドキするかもしれませんが、簡単な言葉だけでも
知っていれば、身振り手振りとあわせて伝えられるもの。

今回は、そんな簡単フレーズをご紹介します。



広島駅 噴水前 1

Hiroshima Station

とっさの
ひとこと度

路面電車はどこから乗るのかな...

そこでひとこと!

Go straight!

ここをまっすぐいきます

MORE!
challenge

It's on the innermost stop.
一番奥の乗り場ですよ



市内電車ですらうらやま!

chugga chugga...

路面電車の中で 2

StreetCar

とっさの
ひとこと度

どこから降りればいいのか?

そこでひとこと!

You can get off from there.

あそこから降りられますよ



レンタサイクルを
使うと便利!



かいてき!



原爆ドーム前 3

Genbaku Dome

とっさの
ひとこと度

平和資料館は、どこにあるのかな?

そこでひとこと!

Cross that bridge, and turn left.

あの橋を渡って、左に行きます

MORE!
challenge

You will see big building. You can't miss it.
大きな建物がみえます。すぐわかりますよ



本通商店街 4

Hondori Street

とっさの
ひとこと度

ドラッグストアはどこだろう？

そこでひとこと！

You'll see it if you walk
2-3 minutes in that direction.

道に沿って2～3分歩いて下さい

パルコ前 5

PARCO

とっさの
ひとこと度

お好み村はどこかな？

Soba
Sounds good!

そこでひとこと！

I'll show you.
Please follow me.

案内するのでついてきてください

OKONOMIYAKI



知っておきたい英単語！

信号 traffic light	看板 sign	交差点 intersection	コンビニ corner store	横断歩道 crossing
歩道橋 footbridge	路面電車 streetcar	電停 streetcar stop	地下道 underground path	

通訳・ガイド、翻訳ボランティア募集中！

国際交流・多文化共生事業や行事で、通訳・ガイド、翻訳にご協力いただけるボランティアさんを募集しています。語学に自信のあるあなたの登録をお待ちしています。

登録資格

ボランティア登録制度の趣旨を理解し、熱意をお持ちの個人および団体で、県内で行われる多文化共生事業に積極的な参加を希望されている方。

満18才以上であり、外国語について日常会話以上の語学力を有している方。

申し込みと登録

登録を希望される方は、所定の申込書を当センターへ提出してください。

(郵送・メール・FAX・窓口でお申込みください)

申込書類を審査・決定の上、ボランティア登録をさせていただきます。

登録期間は登録した日から1年間とし、毎年自動更新します。

問い合わせ先

ひろしま国際センター 久保田(クボタ)
☎082-541-3777 ☎10:00～19:00(平日・土曜日)

申込書はHICのHPから
ダウンロードできます。



お気軽に
お問い合わせ
ください！



担当：久保田(クボタ)

交流部

Report 1 「カープ通訳 西村さんに学ぶ！多文化共生講座」を開催しました。

1月16日（土）にカープ通訳士 西村公良氏をお迎えして多文化共生講座を開催しました。「カープ外国人選手とのコミュニケーション」と題し、西村氏の通訳士になるまでの体験談をはじめ、カープ外国人選手とのコミュニケーションの取り方、信頼関係の築き方等、エルドレッド選手の活躍場面を編集したオリジナルDVDも披露されながら講演いただきました。この講座にお越しいただいた方には、日本語学習支援ボランティア（ワンペア）を紹介し、新規登録を呼びかけました。外国人選手のヒーローインタビューでもおなじみの西村氏の話聞いてみたいと多数のご応募をいただき、会場は満員御礼でした。参加者の方からは「西村さんの英語との出会いのきっかけなど、今まであまり知らなかった面を知ることができて良かったです！！」「人生経験を混じえてお話して下さったので、非常に説得力があり勉強になりました。」との感想がありました。



交流部

Report 2 雪生活体験を開催しました。

1月31日（日）、「雪生活体験」を山県郡北広島町の美和東ふるさと振興協議会と共催で開催しました。多数の応募より選ばれた8カ国42名の在広外国人に参加いただき、同溝口地区の方々と交流を深めました。

本年は暖冬で積雪が心配されましたが、直前に降った雪のおかげで一面銀世界が広がりました。参加者は思う存分雪遊びを楽しむことができたようです。また、地元料理と外国料理を囲んだ交流会や地元芸能、外国芸能のステージ発表も行いました。交流会では、外国人参加者有志の方から、生春巻き（ベトナム）、チキンカレー（インド）、麻辣湯（マレータン）（中国）などのお国料理をふるまっていただきました。

地元芸能では、日本舞踊、銭太鼓、神楽鑑賞などを行い、参加者にとってはとても興味深かったようです。また、外国芸能では韓国やインドネシアの歌を民族衣装で披露し、中国文化の紹介もありました。互いの文化を披露し、国際色豊かな交流ができました。



Report 3 外国人就労環境整備支援事業

①留学生内定者と金融機関職員による意見交換会

1月28日（木）に留学生（国内企業内定者）6名の就職活動体験を聞き、金融機関職員（7名）の方と交流を図る意見交換会を開催しました。金融機関の方からは「留学生の就職への不安感、仕事に対する向上心等、人間味のあるあたたかい人柄を感じた」「大学卒業後も広島に残りたい方が多いことに驚いた」等の感想がありました。

②「外国人就労支援シンポジウム～地域における外国人人材の現状と課題～」

2月19日（金）、シンポジウムを開催し、75名の方に参加いただきました。今年度、（一財）自治体国際化協会の助成事業として、金融機関職員向けセミナー、留学生内定者と金融機関職員による意見交換会を実施し、その最終イベントとして本シンポジウムを開催、地域に暮らす外国人人材について「高度外国人材、外国人留学生、技能実習生」の3つの視点から就労（採用と定着）に関わる現状と課題を整理、共有しました。講師からは「外国人と日本人、お互いに理解し合おうとする姿勢が大事」と言うポイントが共通して示され、企業や大学、地域が一体となりコミュニケーションを図っていく必要性を改めて感じる内容となりました。



留学生活躍支援センター

Report 4 平成27年度第3回「企業見学ツアー」開催

本年度、第1回の三島食品株式会社（広島地区）、第2回の株式会社晃祐堂と株式会社ムロオ（東広島地区）に続き、今回は福山地区の上場企業、三菱電機株式会社福山製作所とリョービ株式会社の企業見学ツアーを2月25日（木）に実施しました。当日は県内の大学や日本語学校から留学生26名が参加しました。

両社とも日本を代表するメーカーであり、ロボットによる製造ラインや迫力満点のダイカストの製造現場などを間近で見学した留学生からは、「トップレベルの技術と徹底した品質管理に触れ、日本のメーカー企業のイメージ形成と就職活動への貴重なヒントが得られた」などの声が聞かれました。今後も県内企業の魅力を伝えとともに、留学生の定着支援の事業を継続開催する予定ですので、次年度もご協力をよろしくお願いします。



リョービ（株）広島東工場にて



三菱電機（株）福山製作所の様子

と徹底した品質管理に触れ、日本のメーカー企業のイメージ形成と就職活動への貴重なヒントが得られた」などの声が聞かれました。今後も県内企業の魅力を伝えとともに、留学生の定着支援の事業を継続開催する予定ですので、次年度もご協力をよろしくお願いします。

留学生活躍支援センター

Report 5 平成27年度第2回留学生合同企業説明会を開催しました

3月16日（水）、広島市留学生会館において「平成27年度第2回留学生合同企業説明会」を開催しました。このところ、広島県内企業の外国人留学生の活用と採用への意欲は顕著で、今回も、募集枠を大きく上回る出展申込みがありました。

当日は、岡山・山口・香川など県外からの留学生も目立ち、前回は上回る約120名の参加者が、配布された企業ハンドブックを手に、出展企業（32社）のブースを順次訪問していました。また、特設の相談コーナーで専門員のコンサルを受ける学生もいて、「就活本番」に向けての緊張感が会場全体にただよっていました。



留学生活躍支援センター

Report 6 【ひろしま留学大使】引き続き広島の魅力をもPRしていきます

広島県内の留学生22名で組成する「ひろしま留学大使」が県内の魅力を世界に発信しています。

2月26日にはメンバーのうち2名が地元FMラジオに出演し、広島に留学を決めた理由や、実際に暮らしてみた感想などを大いに語りました。この様子はインターネット放送を通じて、世界に発信され、広島へのPRに寄与できたものと思います。

メンバーの一部につきましては、今春卒業する学生もいるため、3月11日に修了式を行いました。帰国・就職をしても広島の魅力は伝え続けたいとの声を多くいただき、広島への愛着を強く感じました。引き続きよろしくお願いします。



FMちゅーピー「おれんじかのん」に出演



修了証授与式の様子

研修部（ひろしま国際プラザ）

Report 7 地域国際化アドバイザーとして活躍

ひろしま国際センター研修部の犬飼常勤日本語講師は、(一財)自治体国際化協会の地域国際化アドバイザーに就任し、県内外の自治体や地域国際化協会に出向いて多文化共生に関する研修会等で講師をしています。

今回は、2月9日(火)、外国籍住民の多い滋賀県長浜市役所の要請により、市の職員の方を対象とした研修会で「やさしい日本語」の説明を行いました。

長浜市では、多言語による外国籍住民へのサービスを主体に行われていたようで、やさしい日本語でのコミュニケーション方法について再認識されたとのことでした。



草の根国際協力助成金交付事業のご案内

研修部（ひろしま国際プラザ）

民間レベルの自発的な国際協力活動を推進するため、ひろしま国際センター研修部では、民間の非営利団体が実施する国際協力活動に対して、事業費の一部を助成します。募集締切は、平成28年5月2日(月)(必着)です。

【対象となる事業】

(1) 国際協力の担い手を育成する事業（第1号事業）

民間レベルで国際協力活動を行う団体で活動する人材を育成する目的で、広島県内で実施される事業
例：講演会、シンポジウム、体験活動、調査、フォーラム、セミナー等

(2) 開発途上の国や地域での国際協力事業（第2号事業）

福祉・保健・医療、環境保全、教育文化、産業技術等の分野で、開発途上の国や地域で行われる事業

ホームページを
ご参照ください

<http://hiroshima-hip.or.jp/>

対象事業	助成額	助成限度額	助成回数
国際協力の担い手を育成する事業	対象経費の50%以内	1,000千円	助成1会計年度1回限り
開発途上の国や地域での国際協力事業	対象経費の50%以内	2,000千円	

※平成27年度は4つの団体に対して、合計2,782,772円の助成を行いました。

カンボジア「ひろしまハウス」における 児童・生徒の健診および口腔保健指導事業

特定非営利活動法人 NGO ひろしま 事務局長 後藤 昇

この事業の拠点となるカンボジア「ひろしまハウス」は、首都プノンペンウナローム寺院内にあります。1994年の広島アジア競技大会でカンボジア選手団を支援した「ひろしま・カンボジア市民交流会」が中心となり、広島県とNGOひろしまが支援して2006年に完成した建物です。



ひろしまハウスでの
子供たちの歯みがき指導

今年度は、昨年6月にシェムリアップ州の教員養成校で健診を行いました。

安易に砂糖を含む食品を摂取しがちな都市部では、歯科疾患の多さが顕著です。歯みがき指導や現地語の紙芝居を用いた読み聞かせなどで、口腔保健指導を行いました。

この活動には、NGOひろしまのスタッフをはじめ、広島大学歯学部教職員の教職員や学生を含む広島県内の有志メンバーが参加しました。

また、3月には、ひろしまハウスで貧困家庭の児童・生徒や家族を対象とした歯科健診に取り組みました。

治療の提供も必要ですが、長期的には、新しいむし歯を作らないという予防へのシフトが重要な課題です。公衆衛生を充実する仕組みを築くお手伝いをしながら、現地住民に根気よく、継続的にアプローチをしていく姿勢が必要だと思います。



教員養成校での健診



ホストファミリー募集中

研修部（ひろしま国際プラザ）

ひろしま国際センター研修部がある「ひろしま国際プラザ」では、年間約1200人の研修員が世界各国から集まり研修を受けています。海外からの研修員は、週末を日本人家族と過ごすことを望んでいます。受入れるホストファミリーが不足しており、日帰りのホームビジットもしくは1泊2日のホームステイを受け入れていただけるご家族を募集しています（単身世帯はご遠慮いただいております）。

体験談

ホストファミリーと研修員のホームビジット

周心慧さん（中国出身）

初めての日本人の家へのホームビジットは本当に楽しかったです。一番印象深く感動したのは、晩御飯の時の出来事でした。その時、ちょうど中国広州とクラブアフリカのサッカーの試合があって、みんなはそれを見ながら、ご飯を食べていました。すると、5歳のセナちゃんが、「中国、頑張れ!!」と言いました。すごく心が暖かく感じて、家族の他の人も「中国、頑張れって、中国語は何?」って私たちに聞いて、「中国、加油!!」中国語でも応援してくれました。その瞬間、涙が出てきそうほど感動しました。みんなのおかげで、最後に中国は勝ちました。こんなに素晴らしい家族に出会えるのが、本当にラッキーだなあと感じています。最初会った時の子どもの恥ずかしさはまだ覚えているが、ただ1日間の短い時間だけで、すごく親しくなって、すでに再会を期待しています。今も、その最後の別れの時の子どもキスとお母さんのハグの温度をはっきり感じられるようです。家族全員に本当にありがとうございました。（原文ママ）



馬上さん（熊野町）

今回中国出身の李さんと周さんに来て頂きました。中国の知識はなく、不安ではありましたが、すぐに溶け込んで頂き、子供達もすぐに仲良しになりとても楽しい時間を過ごせました。

ご両親から大切に育てられ、優しさと思いやりのある人に育っていらっしゃるの、世界共通と感じました。民間では国境はなく、どの国の人ともすぐに仲良くなれると思いました。

これからもホストファミリーを通じて色んな国の人と仲良くできたらと思います。

お申込み・お問い合わせは研修部（082-421-5900）まで。

広島から世界へ！ 僕たちにできることは必ずある！

広島から世界へ！ 3月下旬より、広島県出身のJICAボランティア3名が
ケニア、ホンジュラス、パラグアイの3カ国へ向けて出発します！



■現在赴任中の広島県出身 JICAボランティア(名)

区 分	男性	女性	合計
青年海外協力隊	17	31	48
シニア海外ボランティア	6	2	8
日系社会青年ボランティア	—	1	1
日系社会シニアボランティア	—	—	—

平成27年12月31日時点

JICAボランティア <青年海外協力隊とは!?>

「自分の持っている技術・知識や経験を開発途上国の人々のために活かしたい！」という強い意欲を持つ20歳～39歳の日本国籍を持つ方が対象のボランティアです。
派遣は原則2年間。衣食住を現地の人とともにしながら、互いに理解を深め、途上国の発展を支援する。そんな現場レベルのボランティアに、あなたも参加してみませんか！？
40歳～69歳の方を対象とした「シニア海外ボランティア」もあります。

帰国隊員レポート ～ルワンダ篇～

小山 希さん



現地での活動内容

私の活動要請内容は、「水の防衛隊」として、対象地域住民の水衛生に起因する疾病状況の調査、配属先スタッフとの協働による対象地域住民の水衛生に係る啓発活動の計画実施というものでした。村の各家庭を一軒ずつまわり、水の使用状況や保管状況、トイレやキッチンなどの衛生状況を把握し、問題をアセスメントしていきました。そして、学校や村で衛生教育を行い、水因性疾患や感染症についての知識の普及に努めました。

ルワンダってこんなところ！

ルワンダは「アフリカの奇跡」と呼ばれているくらい、アフリカで急成長している国です。IT立国を目指し、国中に光ファイバーを敷設し、ICTの普及・整備に力を注いでいます。小学生を対象にパソコン授業を導入できるよう、各学校にパソコンを支給しています。携帯電話も普及していて、村人でさえも携帯電話を持っています。首都に行けばネットカフェもあります。これからのルワンダの成長が楽しみです。

ルワンダ人ってこんな人！

ルワンダ人はおとなしくて穏やかな人が多いと思います。音楽大好き！仕事中でもガンガン音楽かけます。雨が降ったら仕事に来ません…学校にも行かない！これで私はルワンダ人を何時間も待ちました！ルワンダでは時間がゆっくりと流れます。時間に追われて焦ることがありません。日本ではこんなゆったりとした時を過ごすことが難しいので、ルワンダの生活が今とても恋しいです。

ルワンダ共和国

中部アフリカに位置する共和制国家。
内陸国であり、西にコンゴ民主共和国、北にウガンダ、東にタンザニア、南にブルンジと国境を接する。
【概要】面積：2万6,300km² (四国の1.4倍)
人口：約1,210万人 (2014年 世銀)
首都：キガリ
民族：フツ、ツチ、トゥワ
公用語：ギニアルワンダ語、英語、フランス語
宗教：キリスト教 (カトリック・プロテスタント)、イスラム教



◀水汲みする村の子ども



仲良し家族と▲



◀村で衛生教育を実施した後の帰り道

迷ったらまずはこちら！

2016 年度春募集 「JICA ボランティア体験談 & 説明会」開催！！

青年海外協力隊やシニア海外ボランティアにあなたも参加してみませんか？
参加を迷っている方や、いつかは参加してみたいなあ・・・でもいろいろ不安だし・・・と思っている方大歓迎！
JICA ボランティアとして活動していた方による活動体験談や個別相談も行いますので、ぜひお気軽にご参加ください！

【広島県での開催日程】

・4/6 (水)、17 (日) 広島市 ・4/13 (水) 福山市 ・4/21 (木) 東広島市*

(*青年海外協力隊のみ)

詳細は「JICA ボランティア」で検索！

・上記日程以外でも、直接話を聞いてみたい！
という方大歓迎。

下記、広島県 JICA デスクまでお気軽にお問い合わせください。

●広島JICAデスク
facebookはこちら→



こやま のぞみ 小山 希さん プロフィール

- ・安芸郡出身
- ・看護専門学校卒業後、国際大学看護学部へ編入し、保健師資格取得。県立広島病院、安芸津病院にて5年間勤務。その後、2014年より青年海外協力隊、公衆衛生隊員としてルワンダにて活動。

参加のきっかけ

中学生の頃に読んだカンボジアの地雷の本がきっかけで、将来は途上国で人を助ける仕事がしたいと思うようになりました。看護師経験を積んだ今ならでき！と思い参加しました。

参加して思うこと

今までの私の人生のなかで一番、やりがいのあった、素敵な2年間でした。こんなに悩んで、苦しくて、泣いて、笑った、幸せな時間はきっとこの先もないと思います。ルワンダでは一生付き合っていきたいと思う人達にも出会えました。この2年間は、私にとってとても大切なものになりました。



データ収集、分析、調査。
まずは自分ができること。
この国に必要なことを。
ひとつずつ。

僕たちに
できることは
必ずある

感染症・
エイズ対策
in ガーナ

1000を超える仕事、世界約70ヶ国から、いま必要とされている。

青年海外協力隊
シニア海外ボランティア

春募集

**体験談
&
説明会**

詳しくはウェブサイトへ

JICAボランティア

検索

応募受付
期間

4/1 ▶ 5/9

お問合せ・資料請求
独立行政法人 国際協力機構

03-5226-9813
jicavolunteer-boshu@jica.go.jp



Hello Hiroshima

Vol.92 April 2016



We fought an epic battle; him literally poking holes in it, pushing it over and giggling uncontrollably and me pretending to fix it.

Snow Life Forever

By Trevor Swan

I was sitting at my desk on a Monday afternoon, doing some reading in between jobs when I realized I was forgetting something ... So, I turned to my coworker OT-san and asked him in Japanese¹,

“When is the next Hello Hiroshima article due”? His reply was simply, “tomorrow...”

On January 31st, I joined in the final event² hosted by the HIC, Life in the Snow and I made sure to wear extra layers.

After riding the bus for over an hour and a half we arrived in the town of Mizoguchi, Kitahiroshima. When we exited the bus we were welcomed by a large crowd of cheerful residents and warm applause. In a way, with all the familiar faces and friendly greetings it felt a little like going home.

We got settled in, finished the opening ceremony and split off into groups who cooked, played in the snow and toured the shrines and temples of the town.

While helping out with the play in the snow group, I saw people sledding and playing in snow for the first time (for the third time) and thought briefly about joining them—then I saw a group of older men gathered around a stove drinking warm and eating a freshly hunted wild boar stew and joined in that instead.

After a few servings of both then decided I wanted to make a

snowman to work some of what I had off, so I caught the next sled to the bottom of the hill got started.

Soon, I was joined by a bright international student from the middle kingdom who suggested we make a snow Doraemon. I took the lead on the project, utilizing the 4 days of experience I have had playing in the snow over the past three years. As we built snowDoraemon we were joined by a middle schooler who wanted to improve her English and two more international students from China.

Together we worked tirelessly for the unbelievably long span of a whole hour³ and succeeded in transforming it into an impressively shapeless snowBlob. By 12 pm it was time to go in for the annual lunch party (with cultural performances) and my group said there was no way we could finish. But I told them, “that’s probably true” but pointed out that “there was still time after the party.” After some wonderful performances, wonderful food and wonderful alcoholic drinks we went back out to finish our creation.

But partway through the project, this laughing tiny, tiny person, who could barely speak joined in. We fought an epic battle; him literally poking holes in it, pushing it over and giggling uncontrollably and me pretending to fix it, exclaiming “Oh, no!”

...In the end, we went home in defeat and while it was probably my last time visiting that warm and welcoming place, I it felt great to know that next year my replacement will be headed back to Mizoguchi to create some great memories of their own.

1 As the wonderful book, Kiss, Bow, or Shake Hands, “the Bestselling Guide to Doing Business in More Than 60 Countries” so kindly notes, “Japanese is the official language of Japan.”

2 The final event of the fiscal year.

3 Maybe even two.



Event News



広島県ユニセフ協会設立10周年記念のつどい

広島ジュニアマリンバアンサンブルの演奏、元ユニセフ職員で現在関西学院大学教授の久木田純さんの講演、学生の活動報告という内容で、10年間の活動を振り返ると共に、今後も厳しい環境にある子どもたちへ心を寄せながら支援を継続するという気持ちを参加者で共有し、楽しいひと時にする。

日 4月16日(土)

時 13:00～16:00

場 ゲバントホール(中区本川町2-1-13 和光パレス 21 5F)

定 150名

費 無料

問 広島県ユニセフ協会

高田 和美

082-231-8855

unicef-hiroshima_06@theia.ocn.ne.jp

第5回中日文化講演会

広島市立大学薬竹民教授による『「和」の諸相』という題の講演会。中国古代から今日に至って変ることなく重んじられる「和」を取り上げ、その語源的、思想的に考究を施して、更に、その「和」が日本における受容、展開をも合わせて検討してみる。

日 4月23日(土)

時 15:00～17:00

場 広島大学東千田キャンパス共用講義室

定 80名

費 無料

問 広島県華僑華人総会(盧 濤)

盧 濤

070-5673-7888

lutao@hiroshima-u.ac.jp

講演会「7ヵ国語で話そう。」

高校時代より、ヒッポファミリークラブの活動に参加してきた講師、平岡一武氏が自身の体験から「多言語(たくさんの言葉)の自然習得」についてお話しします。

また4月から始まる、東京大学、マサチューセッツ工科大学、ヒッポファミリークラブの共同研究「多言語習得のメカニズムを脳科学的に解明する」についても報告します。

日 5月20日(金) 21日(土)

時 20日(金)10:00～12:00 21日(土)14:00～16:00

場 広島国際会議場

定 両日とも 100名

費 無料

問 ヒッポファミリークラブ 広島

神川 邦子

フリーダイヤル 0120-557-761

info@hfcw.jp

トラブル体験会

突然、降りかかる災害、交通事故などのトラブル。言葉や心身にハンディを抱えた人等にはさらに困難な状況が発生します。今年で2回目となるトラブル体験会では、交通事故や避難所のトラブルを疑似体験することができます。午後も国際交流や障害者支援グループの展示があります。

日 7月31日(日)

時 9:30～12:30

場 あいプラザ(廿日市市社会福祉協議会)

定 50名

費 300円(障害のある方150円)

問 ええじゃん(Asian)

栗林 克行

090-6436-0200

kkurisan@hotmail.com



■活動内容 在住外国人の方の日本語学習を一对一(ワンペア)で、お手伝いします。

■活動場所 ひろしま国際センター 交流部(広島市中区中町8-18)

■募集対象 外国人の方の日本語学習を手伝ってみたい方、国際交流に興味のある方、ボランティアに興味のある方。年齢18歳以上。資格・経験は問いません。(申込み時に語学力等ご相談いただけます)

HICワンペア
日本語学習ボランティア

始めよう
日本語を伝える
お手伝い



詳しくはウェブサイトへ

HIC ワンペア

検索



■申込方法

来館、ホームページ、郵送またはFAXでお申し込みください。郵送、FAXの場合、ホームページから登録用紙をダウンロードいただけます。

■登録後の流れ

登録後は当センターにてご希望条件(※)に合った方とマッチングいたします。

※希望条件は、学習曜日や時間帯、学習頻度、学習レベル等です。

【お問合わせ】公益財団法人ひろしま国際センター 交流部

tel:082-541-3777

「グローバルリレーションズ・プログラム(GRP)」参加者の声

ひろしま国際プラザ生活・多文化共生 ジョウ ケイゾン 轟 奎全さん(中国)



皆さん、こんにちは。私は轟奎全と申します。中国東北部の丹東市で生まれた満州族です。2013年に渡日し、現在広島大学社会科学部研究科(外交政策学研究分野)博士課程の三年生です。私が新入生の頃に、ひろしま国際センターが実施した「東広島バスツアー」への参加をきっかけに、ひろしま国際プラザという「世外桃源」のような施設を知らされました。その後、GRPというプログラムを知って、迷わず応募し、研修生になりました。ひろしま国際プラザでの生活は、十分な生活支援、個人研究の環境に良く、住む人の心が優しいだけでなく、フラット化が進む世界の中で、異文化と接して、多文化環境が実感できます。毎月、沢山の日本文化体験のイベントを始めた多文化に接するチャンスが多く、大和琴体験、柔道、ミニコンサート、お国自慢などのイベントに参加して楽しいです。かつ、多国から

の研修生と共に住んで、宗教の相違、行動パターンの違い、食文化の異同等を感じながら、世界の縮図の認識を実感できます。

2016年度に卒業予定の私にとって、勝負の年になることと信じます。今後、帰国して日中の架け橋になるよう頑張ります。

最後に、新入の留学生達はぜひGRPに応募してください。



グローバルリレーションズ・プログラム(GRP)とは？

ひろしま国際プラザに入居して大学に通いながら、国際社会で活躍できる「実践力」を身につけることを目的とした、外国人留学生のためのプログラムです。今年3月現在、7ヶ国15人の留学生がこのプログラムに参加しているほか、レジデントアシスタントの日本人学生2人が入居し、彼らを支援しています。

★入居使用料

1泊770円 管理費2500円/月額 24,060円～26,370円(水道光熱費込み)

★次期募集時期

今年6月頃。各大学へ通知するほか、「ひろしま国際プラザ」のHPでもお知らせします。

HIC交流部からのお知らせ

Free Back Issues of Magazines
雑誌のバックナンバーを無料配布します

ひろしま国際センターでは、施設内で配架している古い外国の雑誌や日本の雑誌を無料で配布します。ご希望の方は交流部のラウンジへお越しください。

期間 2016年6月中旬(日程はHP掲載予定です)

場所 ひろしま国際センター交流部

方法 期間の間、ラウンジに雑誌を並べます。ご希望の雑誌をお持ち帰りください。

※1人3冊まで(ひらがなタイムスは1人1冊まで)

※先着順(雑誌が無くなったら終了します)



1人3冊まで(主に2015年7月～2015年12月に発行された雑誌)

TIME / The Economist / Weekly Chosun / Koreana / スッカラ / 青年文摘 / 読者 / 東西南北 / 留学生 / 留学ジャーナル / 国際人流 / Kyodai / 自治体国際化フォーラム / 海外日系人 Hoppoken / UNICEF NEWS / India Today / ひらがなタイムス / 絵本 / その他

賛助会員を募集しています！

HICでは幅広く市民の皆さんに協会の事業についてご理解、ご支援いただくために賛助会員制度を設けています。賛助会員の皆さんには、協会機関誌など国際交流情報やイベントのご案内をお送りさせていただきます。この制度を通して言葉や習慣の違いを乗り越え、心を通い合わせることでできる豊かなまちづくりに一緒に参加しませんか？

皆さまからご支援いただく賛助会費(※)は国際交流事業、国際理解教育事業、多文化共生事業に使わせていただいております。

■入会資格

協会の趣旨に賛同していただける個人、法人・団体

■年会費

個人一口 2,000円(一口以上)

法人・団体一口 10,000円(一口以上)

※当協会に対する賛助会費については税法上の優遇措置があります。

交流部&留生活活躍支援センター

〒730-0037

広島市中区中町8-18 広島クリスタルプラザ6F

TEL.(082)541-3777 FAX.(082)243-2001

E-mail/hic@hiroshima-ic.or.jp

■開館時間

月～金 10:00～19:00 土 9:30～18:00

日・祝日および年末年始(12/28～1/4)はお休みです。



研修部(ひろしま国際プラザ)

〒739-0046

東広島市鏡山三丁目3-1 ひろしま国際プラザ内

TEL.(082)421-5900 FAX.(082)421-5751

E-mail/hicc@hiroshima-ic.or.jp

■開館時間

(情報センター・図書室・NGO交流室)

月～土 10:30～19:00※

日・祝日および年末年始はお休みです。

※情報センター・図書室は平日12:30～13:30閉館です。臨時に閉所する場合は、HPで随時お知らせします。

